

令和7年度 第2回 研究調査部会 活動報告

令和7年11月25日(火)午後2時～
浦和コミュニティーセンター10階7室

- 1 開会の言葉 笠原幸夫 副会長
- 2 会長挨拶 新井俊一 会長
- 3 部長挨拶 中村文夫 部長（議事 司会）

1 「実態調査」の回収状況と集計結果について

2 集計結果・内容の考察

- ① 新入会員の教育分野への勤労意欲は85%と高い。昨年の97%の再就職には及ばない。
- ② 役職定年時に就職しない人が昨年より7人（3%→15%）増の計10人だが訳は不明。
- ③ 仕事内容は経験を生かした学校教育分野を選んでいる。82.86%と多い。
- ④ 働き方の選択は、フルタイムと選考後特例任用を合わせると63, 8+15、5=79、3%と約8割がフルタイム勤務をしている。
- ⑤ 報酬は「20万以上40万未満」がピークで約65.5%を占めている。
- ⑥ 今後の働き方の希望は、暫定再任用勤務やフルタイム勤務で定年退職まで勤めあげる意欲を感じる。
- ⑦ 前年度の反省が生き調査用紙の質問7の要望や意見の回答スペースを広げた。その中で、役職定年時とは役職定年に該当する年齢の時点のことと原点に戻り再確認した。

3 来年度の調査及び活動の方向性について

【各支部からの意見・協議事項の集約】

○【実態調査の意義・継続】

定年移行期にあたり、新入会員の初めての役職定年後の働き方の選択がどのような実態なのか多くの人が注目している。調査研究部としては新入会員がどのような働き方を選択したか、役職定年制の2年目である。今後も継続・蓄積が大切。

○【役職定年後とは】

役職定年時とは役職定年に該当する年齢の時点のこと。この時に退職する方もいるが、いわゆる定年退職の時点ではない。この点を今後も確認し、継続調査していく。

○【厳しい状況】

介護のため働けない状況がある。その中で退職後少し休みたい、勤務から解放されたなどの気持ちは理解できる。再任用の場合、厳しい状況で苦勞されている実態も

○【会員の加入】

会員の加入は班や市単位等で退職校長会会員が学校へ訪問して加入の案内・勧誘するなど分担して行っているが、加入者数を増やしたい。多様な働き方のなか、入会意識の低い方もいる。今後も工夫して加入を促進したい。

○【改善への工夫】

今後調査の内容充実や改善へ向けて、新入会員に調査の要望やどんな情報がほしいかなどの項目を工夫していく。

【来年度の方向性】

- 役職定年された新入会員の方々の実態調査を継続し蓄積していく。
- 8年度も7年度の調査の反省を生かし項目や記入スペースを工夫する。
- 対象は、役職定年された新入会員で、「昭和39年4月2日～昭和40年4月1日」生まれの方々。

- 4 閉会の言葉 新海今朝巳 副会長